

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

<p>産業廃棄物処理計画書</p> <p style="text-align: right;">令和7年5月13日</p> <p>大阪市長 殿</p> <p style="text-align: center;">提出者</p> <p style="text-align: center;">住所 大阪府大阪市西区立売堀1-3-13 第三富士ビル5階</p> <p style="text-align: center;">氏名 大木建設株式会社大阪支店</p> <p style="text-align: center;">執行役員支店長 高島 省裕 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)</p> <p style="text-align: center;">電話番号 06-6532-6021</p> <p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。</p>	
事業場の名称	大木建設株式会社 大阪支店
事業場の所在地	大阪市西区立売堀1-3-13 第三富士ビル5階
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	06 総合工事業
②事業の規模	326,600万円
③従業員数	33人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<ul style="list-style-type: none"> ・汚泥→中間処理業者(脱水・流動化)に委託(再生砂・路盤材として再資源化) ・廃プラスチック類→処理業者(破碎)に委託(原料として再資源化) ・木くず→再生処理業者に委託(原料、燃料用として再資源化) ・陶磁器くず→処理業者(破碎・選別)に委託(最終処分、再生可能材は路盤材とし再資源化) ・コンクリートくず→処理業者(破碎・選別)に委託(最終処分、再生可能材は路盤材とし再資源化) ・廃石膏ボード→処理業者(破碎)に委託(最終処分) ・がれき類→処理業者(破碎)に委託(再生砕石として再資源化) ・建設系混合廃棄物→処理業者(破碎・選別・焼却)に委託(原料として再資源化、最終処分) ・石綿含有産業廃棄物・廃石綿等→処理業者に委託(最終処分)

(日本工業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項 (管理体制図) 別紙管理体制図のとおり	
--	--

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度(令和6年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	木くず
	排出量	2,840 t	122 t
	(これまでに実施した取組) ・梱包材の簡素化(木くず)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木くず	廃石膏ボード
	排出量	20 t	30 t
	(今後実施する予定の取組) 上記に加え、下記の取組みを実施予定 ・実寸発注の実施 ・余剰材の引き取り		

産業廃棄物の分別に関する事項	
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・がれき類、木くず、金属くず、石綿含有産業廃棄物の分別・保管を実施
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・上記の活動を継続実施

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	廃石膏ボード	その他がれき類	コンクリート塊
5 t	160 t	213 t	1193 t

②計画

コンクリート塊	アスファルト・コンクリート塊	がれき類 (石綿含有産業廃棄物)	建設混合廃棄物 (管理型)
100 t	70 t	20 t	150 t

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

アスファルト・コンクリート塊	がれき類（石綿含有産業廃棄物）	建設混合廃棄物（安定型）	建設混合廃棄物（管理型）
322 t	15 t	40 t	159 t

②計画

t	t	t	t

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

照明機器			
1 t	t	t	t

②計画

t	t	t	t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	（これまでに実施した取組） —		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	（今後実施する予定の取組） —		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
（これまでに実施した取組） —			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
（今後実施する予定の取組） —			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	（これまでに実施した取組） —		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	（今後実施する予定の取組） —		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	木くず
	全処理委託量	2,840 t	122 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	116 t
	再生利用業者への処理委託量	2,840 t	122 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） <ul style="list-style-type: none"> 再生利用が可能な廃棄物については、再生利用業者に処理を委託。 処理委託業者選定時に、現地確認を実施。 電子 manifests の利用（排出事業所利用率97%） 		

(第4面-2)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状

—	—	—	—
— t	— t	— t	— t

②計画

—	—	—	—
— t	— t	— t	— t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状

ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	廃石膏ボード	そのほかれき類	コンクリート塊
5 t	160 t	213 t	1193 t
0 t	0 t	0 t	0 t
5 t	160 t	213 t	1193 t
0 t	0 t	0 t	0 t
0 t	0 t	0 t	0 t

(第4面-3)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状

—	—	—	—
— t	— t	— t	— t

②計画

—	—	—	—
— t	— t	— t	— t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状

アスファルト・コンクリート塊	がれき類 (石綿含有産業廃棄物)	建設混合廃棄物 (安定型)	建設混合廃棄物 (管理型)
322 t	15 t	40 t	159 t
0 t	0 t	0 t	140 t
322 t	0 t	40 t	159 t
0 t	0 t	0 t	0 t
0 t	0 t	0 t	0 t

(第4面-3)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状

—	—	—	—
— t	— t	— t	— t

②計画

—	—	—	—
— t	— t	— t	— t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状

照明機器			
1 t	t	t	t
1 t	t	t	t
1 t	t	t	t
0 t	t	t	t
0 t	t	t	t

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木くず	廃石膏ボード
	全処理委託量	20 t	30 t
	優良認定処理業者への処理委託量	5 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	20 t	30 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) ・可能な限り優良認定処理業者から選定する。 ・熱回収が可能な廃棄物については熱回収業者へ処理委託を行なう。 ・電子マニフェスト利用率の引き上げ。(排出事業所利用率100%目標)		
※事務処理欄			

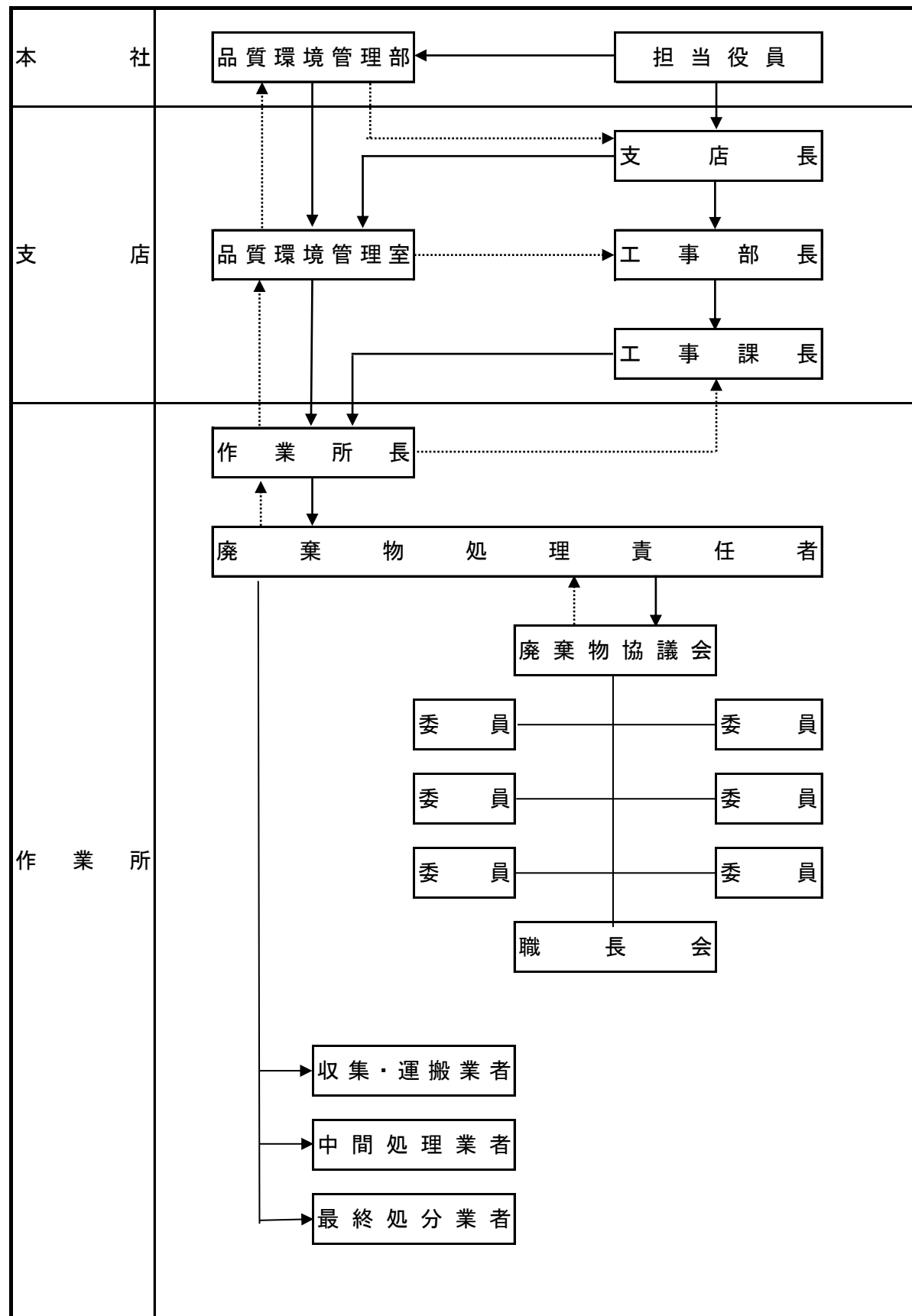
(第5面-2)

②計画

コンクリート塊	アスファルト・コンクリート塊	がれき類 (石綿含有産業廃棄物)	建設混合廃棄物 (管理型)
100 t	70 t	20 t	150 t
0 t	0 t	0 t	50 t
100 t	70 t	0 t	150 t
0 t	0 t	0 t	0 t
0 t	0 t	0 t	0 t

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。



管理体制の業務分掌

本社・品質環境管理部

- 1 社内管理要領に関する事項
- 2 適正管理にかかわる啓発活動
- 3 建設業界の廃棄物対策への参画
- 4 関係行政との連絡、調整
- 5 各支店間の廃棄物処理状況の把握、調整
- 6 会社の廃棄物処理資料の収集、分析、集計
- 7 諸官庁の関係法令についての理解と運用

支店長(廃棄物処理統括責任者)

- 1 廃棄物処理方針の策定
- 2 廃棄物処理に関する各種事項の決定、承認

支店・品質環境管理室(廃棄物管理担当者)

- 1 支店内の廃棄物に関する連絡、調整、確認
- 2 担当の関係行政との連絡、調整
- 3 廃棄物処理に関する資料の集計、記録
- 4 廃棄物処理業者の選定、啓発、指導
- 5 支店内の廃棄物処理に関する啓発、指導
- 6 支店内パトロールの実施
- 7 監督官庁への各種報告

工事部 部課長

- 1 担当する作業所の廃棄物処理に関する啓発、指導
- 2 担当する作業所の廃棄物関連書類の支援、検討
- 3 担当する作業所の廃棄物処理状況の把握、調整
- 4 担当する作業所の廃棄物処理運営、実行に対する支援

作業所長

- 1 廃棄物処理に関する運営、推進
- 2 廃棄物処理業者の選定
- 3 選定廃棄物処理業者の処理場の把握、現地の確認、確認後の報告
- 4 廃棄物処理業者との処理委託契約の締結
- 5 廃棄物関連書類の作成
- 6 廃棄物の作業所内保管状況の点検、指導
- 7 廃棄物の分別の実施
- 8 廃棄物処理業者の管理、指導
- 9 品質環境管理室への廃棄物処理状況の報告
- 10 発注者及び関係監督官庁との対応
- 11 作業所内の廃棄物処理責任者(特別管理産業廃棄物を含む)の設置

作業所 廃棄物処理責任者

- 1 廃棄物の分別の実施
- 2 廃棄物の作業所内保管状況の点検
- 3 産業廃棄物管理票の交付、管理
- 4 廃棄物処理業者の管理、指導

作業所 廃棄物協議会

- 1 廃棄物抑制に対する工法等の検討、実施
- 2 廃棄物の適正管理の実施、確認
- 3 廃棄物の分別、集積ルールの順守